

武藤芳照の正義



子どものころのかるた遊びと言えば、「江戸いろはかるた」が一般的だったように思う。「い☆犬も歩けば棒に当たる」「ろ☆論より証拠」「は☆花より団子」「ま☆負けるが勝ち」「ゆ☆油断大敵」など、短い言葉にそれぞれ深い意味が込められ、「一つ一つが金言のようでもある」。

「いろはにほへちりぬるを」色は匂へど散りぬるを……は、もともと平安期の今様歌とされているが、47のかな文字全てを使い、諸行無常(しよぎようむじよう)をほじめとする涅槃(ねはん)経の教えをまことめ上げた先人の知恵には舌を巻く。

ドーピングをしないさせないために

成し、4月の日本選手権の折に紹介されるとともに、全国の水泳関係者に配布された。世界的に見て日本のスポーツ界では、意図的に禁止物質を使用して、競技力向上を図ろうという悪意に満ちた選手・コーチはいないと行って良いほど、「クリーンさ」が自慢だ。しかし、無知であるために、あるいは不注意でドーピング陽性と判定される例があることも確かだ。

そこで、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)をはじめ各種競技団体などでは、選手、コーチ、保護者のために、ドーピングのこと、アンチ・ドーピングの意味・目的、禁止物質の中身、ドーピング検査の受け方など、「大切なことをわかりやすく」伝えるための教育・啓発活動を熱心に行っている。

日本水泳連盟では、これまでに、他競技団体に先駆けて

- ①「ドーピングってなに? Q&A」(1990年)
- ②「これだけは知っておきたいドーピング」(93年)
- ③「新・ドーピングってなに?」(96年)
- ④「新2ドーピングってなに?」(97年)

の4冊もの選手・コーチ向けのアンチ・ドーピング教育・啓発冊子を発行してきており、今回、18年ぶりに5冊目の冊子が作られた。いずれの冊子も、企画・編集を私が担当したが、時代の流れにより禁止物質、ドーピング検査方法、選手が行うべき手続きなどが変化していることを実感している。

しかし、選手らに真に伝えなければいけない基本理念は、時代がどんなに移ろうとも変わることはないだろう。それは、「ドーピング検査は、不正行為を行った選手を摘発するために行うのではない、懸命に練習・トレーニングし続け、ルールを守る真面目な選手たちの権利を守り、その努力と苦勞に報いるために、そして、そのスポーツが健全になさるために証明するために行われます。つまり、『スポーツの健康診断』(古橋廣之進元日本水泳連盟会長)なのです」(同冊子より)ということだ。「ドーピングをしない させない」ために、このことを特に強調しておきたい。

(日本体大総合研究所 長)